

「産科スタッフのための正常分娩と 緊急時の対応シミュレーション」

2022年9月9日の第63回日本母性衛生学会にて、岡山大学病院産科婦人科学教室の牧尉太先生を講師にお迎えし、ハンズオンセミナーを共催いたしました。産科教育におけるシミュレーションの重要性から、ハンズオン形式でのレクチャーまで、先生の軽快なトークを交えた1時間のご講演の様態をレポートします！

特集
3

スケジュール schedule

講義30分

- 1 “前置き:Grit/そなえることとは?”
- 2 “産婦人科のシミュレーション教育”
- 3 “学習者の動機づけを高め、引き出す”
- 4 “教育とモチベーション”
- 5 “プロフェッショナルを育てる”
- 6 “プロフェッショナルが育ちやすい環境づくりとは?”
- 7 “Konoha®”のシームレス化
- 8 “Konoha®”と共にチームスキルアップ

ハンズオンセミナー30分

- 1 正常分娩の介助
- 2 吸引分娩の適応と操作



講義の内容をチラ見せ! pick up!

1 “前置き:Grit/そなえることとは?”

Gritを高めるには?

Gritとは「情熱」と「粘り強さ」を合わせもつ「やり抜く力」。小学校で算数を教えるアンジェラ・ダックワース氏は、生徒のGritを高めることに注力したことで、成績を飛躍的に伸ばすことに成功しました。彼女は、「良質なトレーニングによりGritを高めれば、学修者は大きなチャレンジをすることが可能」だといいます。では、指導者はどうすれば良質なトレーニングを提供できるのでしょうか?

良質なトレーニングを行うには

- ・良い指導者
- ・良いシミュレータ(環境)
- ・繰り返し行うこと

が必須だと、ある人はいいいます。
ご施設で確保できていますか?

ある人って、私なんですけどね(笑)



6 “プロフェッショナルが育ちやすい環境づくりとは?”

やる気スイッチをONにする

イタリア・パルマ大学のジャコモ・リゾラッティらによって発見された、他者の行動・共感に共鳴する神経ネットワーク、「ミラーニューロン」。「自らやってみて、他者がやっているところを見ることで、ミラーニューロンが活性化され、モチベーションが上がります。」

産科の教育に置き換えると、分娩の現場を見せて、その後すぐ分娩のシミュレーションができるようなカリキュラムを組む。そうすることで、学修者のやる気スイッチが押され、記憶にも残りやすくなります。



いざ、ハンズオン！

後半30分は、ハンズオンセミナー。実際にシミュレータを使って分娩介助のレクチャーが行われました。内診と正常分娩の流れに関する動画を視聴し、これから行うシミュレーションの心の準備をします。

いよいよ実践！参加者の先生にシミュレータを用いた分娩介助を体験していただきました。



内診の途中で中の様子を確認して、理解を深めます。



これからの助産学に必要なのは難産の管理。難産が増える中で、医師より専門的にお産の経過を見る助産師がいかに途中の分娩管理を行うか。内診に自信がない若手が増えている中で、シミュレータを用いてしっかり何度もトレーニングしてもらいたいです。

お産をとるのは10年以上ぶりという先生も、リアルなお産の感覚に現役の記憶が呼び起こされ、ベテランの手さばきで赤ちゃんをとり上げて下さいました。



この体勢、素晴らしいですね！研修医に見せてあげたい！



吸引分娩を理解しておくことで、医師へのサポートの幅が広がりますよね。

その後、吸引分娩も実践。普段経験できない手技もシミュレーションなら体験を通して学べます。実際に手にカップをつけてみたり、間違った方向に思い切り引っ張って失敗例を試してみたりしながら、吸引分娩の適応はどこで判断するのか、吸引カップの扱い方から禁忌など、吸引分娩の一連の手技を学びました。

講師 まき じょうた
牧 尉太 先生

岡山大学病院産科・婦人科
岡山大学病院医療教育センター
多職種連携医療教育部門教員兼務



参加者の声 Attendees' Voice

Drのお話は楽しくそれでいて学びもたくさんでした。学生指導はしていませんが、助産師のお仕事はほとんどが教育です。実際に活かしていきます。

病院で使用しているシミュレータは分娩介助のみしか練習できないので、頸管の展退など途中経過も把握しながら練習できるのが良いなと思いました。

もっと実際にシミュレーションやりたくなりました。